

「秋季大学2018ご参加ありがとうございました」

第26回秋季大学実行委員長 溝口 信之

去る9月22日「平成最後のTKC近畿京滋会秋季大学@みやこめっせby洛西・両丹支部」に多数の皆さまにご参加いただき、実行委員会一同を代表して厚く御礼申し上げます。

昨年8月31日のプレ準備委員会からスタートした実行委員会。暗中模索でテーマも決まらず大学長人選で暗礁に乗り上げたものの、9月29日の準備委員会から圧倒的な会員出席率となりました。召集時に「欠席裁判」を匂わせるという卑怯な手段を採ったためかとも思いましたが、以後9回に亘る全体会議のいずれもが支部会員の約半数という出席率を維持できました。これは驚異的・感動的な出席率なのです。

第1回目の委員会で、「人工知能の発展に比例する職業会計人の不安」を本質的なテーマとした旨を発議したところ、前回の実行委員長でもあった今西到会員から「人工知能と人間力の対比」を主軸とした構成が発案され、書道パフォーマンスを懇親会のメインアトラクションとすることで決定しました。また、せっかくのこの出席率を活用して、本番当日だけのイベントではなく他支部会員や事務所スタッフの皆様を巻き込んだクレスシェンド的な企画を盛り込みたかったことから、習字コンテストとして作品を募集しようということになり、動員活動に加えての応募促進活動と、実行委員の負担が増えていくハメに。さらには私のワガママで、近畿4会で話題の黒字化面を京滋会にもお披露目したくて、これで予算も時間もオーバー気味になってしまいました。

そして当日。開始直前になって変更しなければならなくなった事項と、徐々に強くなる雨足に不安を感じながらも、実行委員一同、参加者にはきっと満足してもらえるという自信の顔になっていました。開場に合わせて政府広報の「Society 5.0」と特別協賛をいただいた大同生命保険様、大和ハウス工業様、積水ハウス様のそれぞれの「未来」をモチーフにした動画をループ上映して今回のテーマをお伝えすることとしました。特に大和ハウス工業様には毎回の実行委員会にご出席という多大なるご協力をいただきました。

秋季大学トップの基調講演は東京大学の柳川範之教授。氏は人工知能、フィンテック、働き方改革等に関する政府機関でも活躍されています。講演では特に我々会計人が知りたい部分であった人工知能と会計人が共生できるのかという不安について、人工知能の得手不得手を明らかにしながらご説明いただきました。怖いのは「スピード感」であり、これはもう避けられないが、だからこそチャンスが増えるのだということが理解できました。続いて、株式会社TKCの飯塚真規代表取締役専務のご講演。柳川教授からの環境変化のテーマを受けて、ならばTKCはベンダーとして人工知能をどのように対応して行こうとしているのか、職業会計人としてどのようにシステムを使いこなして行けばよいのか



東京大学 大学院 経済学研究科 教授 柳川範之氏



株式会社TKC 代表取締役専務執行役員 飯塚真規氏

について、明確にご解説いただきました。専務は京都にも縁が深く、スピーカーとしての京滋会デビューをぜひとも秋季大学という想いでお招きました。この秋、他地域会の秋季大学でも引っ張りだこのご様子です。

さていよいよお待ちかねの懇親会です。株式会社リ・ラックスデザインワークス様制作のオープニングビデオは圧巻でした。人類の黎明期から進化を経て現在・未来にいたる様子を映像と音楽で表現しています。ど肝を抜かれた会場に、書道家・青柳美扇様の登場です。力強く揮毫された「不撓不屈」ですが、文字の表面上の意味は人工知能がむしろ得意とするところかも知れません。しかしそのベースとなっている「強い意志を持って」は人間の役割です。この作品は株式会社TKC本社に贈呈し展示されることになりました。

次は何の前触れもなしに始まった「黒字化面リエキング」のビデオ上映です。会計専用AIロボを安価で導入してきたからといって、浅はかな社長は税理士を呼び出して顧問契約の解約を言い渡します。しかし数ヶ月後、会計帳簿はミス連発で金融機関、取引先、税務当局から総スキャンを喰らいます。ロボは会社が混乱するようにプログラミングされていました。見かねた税理士は黒字化面に化身、佐藤大学長と協力してロボを成敗しました。浅はかな社長役だけ当日も出番があるため、当日一番暇そうな実行委員長という配役になり恥をかかせていただきました。

書道コンテストでは応募総数185作品と想定以上にご応募をいただいたことから、急速、賞の数を増やして対応しました。作品の展示方法も当日まで右往左往したものの、ご出席の皆様にじっくりご鑑賞いただけたものと思います。受賞された4作品はさすがの名人級でした。未来の職業会計人の「運命打開」をお考えいただくよい機会になったのではないのでしょうか。

最後は、次回開催担当となる洛南支部への引継ぎです。100名を超える巨大支部ならではの企画を期待して角谷雅子支部長に会旗を引き継ぎました。

末筆ながら、ご出席いただいた会員先生、職員様、提携協定企業の皆様に対しては行き届かない点が多数あったと反省しきりです。が、支部活動を通じた地域会活性化に少しでも貢献できたのであれば、とても嬉しく思います。今回の秋季大学は少なくとも洛西・両丹支部の実行委員は楽しく運営することができました。また、京滋会事務局およびSCGの皆様のご多大なご協力に感謝致します。当日ご参加いただいた皆様、ほんとうにありがとうございました。



黒字化面リエキング 佐藤大学長 ロボを成敗



力強く揮毫される青柳美扇様



洛西支部より洛南支部へ引継ぎ式

